

ARCHITECTURE OF YOSIZAKA TAKAMASA + ATELIER U

DIS-CONTINUOUS UNITY

みなで つくる 法

DIS-CONTINUOUS UNITY

吉阪隆正+U研究室の建築
Architecture of YOSIZAKA Takamasa+Atelier U

2015.12.3.thu ~ 2016.3.13.sun

開館時間 10:00~16:30

休館=12/13[日]、12/29[火]-1/3[日]

December 3 thu. 2015 - March 13 sun. 2016

Open hours: 10:00 - 16:30

(Closed December 13 sun., and December 29 tue. - January 3 sun.)

主催:文化庁

協力:公益財団法人東京都公園協会

制作協力:早稲田大学、吉阪隆正展実行委員会

Organized by the Agency for Cultural Affairs

Supported by Tokyo Metropolitan Park Association

In cooperation with: Waseda University,

YOSIZAKA Takamasa Exhibition Executive Committee

国立近現代建築資料館

会場: Venue

文化庁国立近現代建築資料館

National Archives of Modern Architecture,

Agency for Cultural Affairs

113-8553 東京都文京区湯島4-6-15

TEL.03-3812-3401 FAX.03-3812-3407

4-6-15 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8553, Japan

<http://nama.bunka.go.jp/>

文化庁

国立近現代建築資料館

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

みなでつくる方法

吉阪隆正+U研究室の建築
Architecture of YOSIZAKA Takamasa + Atelier U

〈みなが感激できる劇的な存在がある〉
それを信じたのが吉阪隆正でした。
それゆえに吉阪は「みなでつくる方法」があることを確信しました。
人に訴えるたくさんの言葉を遺し、協力者とたくさんの図面を描いてきました。
その協力者たちをU研究室と言います。各々が提案し、粘土模型を囲んで話し合い、
ちょっとした出来事によって決定的なアイデアが生まれ、
そのかたちは〈みなのもの〉になりました。

吉阪隆正(1917~1980年)は、幼少期をジュネーブで過ごした経験から、建築が平和のための相互理解への手掛かりとなると考え、その道を志しました。早稲田大学にて今和次郎に師事し、民家調査、住居学に取り組み、第二次世界大戦後の1950年から2年間、近代建築の巨匠ル・コルビュジエのバリのアトリエで活動しました。帰国後に吉阪研究室(1964年にU研究室と改組)を創設して、住居、学校建築、市庁舎、まちづくりなどを手掛け、粗い表情を持つ彫塑的なコンクリートの造形とディテールの表現で、社会と建築の在り方を世に問いました。また、建築家としてだけでなく、教育者、アルピニスト、文明批評家としても多くの著作を残しています。

吉阪隆正が提唱した「不連続統一—DISCONT」はDiscontinuous Unityの略語で、個と集団の組織論であり、造形論であり、設計手法でもあります。本展では、この思想を基調に「ことば」と「かたち」が対話しながら形姿をつくり出すプロセスを、図面、スケッチ、言葉と写真などで構成した4つのゾーンで提示します。そして、製図台や青焼き図面、家具、実際の手摺や建具などに触れながら、たくさんの個性豊かな協力者が集まって建築が生まれる場を体験していただきます。

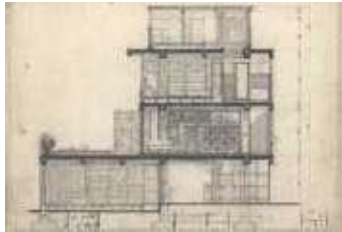
After finishing his studies in the fields of housing and the research into traditional East Asian houses at Waseda University, in 1950 YOSIZAKA Takamasa (1917-1980) went to Paris to work at Le Corbusier's atelier for two years. Upon returning to Japan, he established the Atelier YOSIZAKA Takamasa (renamed "Atelier U" in 1964). All of their designs of private residences, school, governmental and other public buildings, as well as work in the realm of town planning, reflected the atelier's questioning stance toward the position of architecture in society. The concept of "DISCONT", an abbreviation for "Discontinuous Unity", is the fundamental idea behind YOSIZAKA's philosophy in terms of individual and collective organization, formative design, and design methods. It is at once a principle that reflects the thematic root of this exhibition.

Displayed in this exhibition are plans, sketches, texts and photographs that document the process of creating shapes through a dialogue between "language" and "form". While walking around actual drafting tables, furniture, architectural fittings and other objects, visitors can experience the generation of architecture as realized in collaboration between several people of great individuality.



葉っぱは傘になり
住居について
House

吉阪の「まちづくり」の出発点である住居を展示の起点にする。パリから帰国後、1955年《吉阪自邸》を発表し、「個人の自由と集団の利益の境界線」の存在として《浦邸》《ヴィラ・クックウ》などの住居を設計。それらが1956年、生涯のパートナーとして図面を描き続けた大竹十と取り組んだ《ヴェネチア・ビエンナーレ日本館》へとつながり、活動を広げてゆく。



吉阪自邸断面実測図 1973年頃



ことばから姿へ、姿がことばに
造形について
Form

5人の創設メンバーで設計活動を始めたのが1954年。《海星学園》《呉羽中学校》の学校建築を設計し、《日仏会館》《江津市庁舎》では公共広場を提案した。1961年吉阪自邸のアトリエを移し、学生や社会人も巻き込みながら、《箱根国際観光センター競技設計》、《大島元町復興計画》へと活動を広げていった。ここでは、生活学から有形学への展開をたどる。

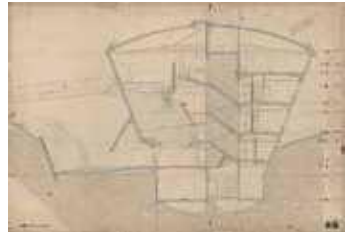


箱根国際観光センター競技設計 天の広場平面図 1970年頃



不連続統一
組織について
Organization

ピラミッド型の組織構造を否定して、自立した個人が集まった集団の場「不連続統一—DISCONT」。模型と図面を囲んでディスカッションを重ねながら、形を決めていくのが吉阪隆正+U研究室の方法であった。《コンゴ・レオポルドビル文化センター計画国際競技設計》《アテネ・フランス》《大学セミナー・ハウス》を取り上げ、多様性を持ちながら統一性を失わない形姿に注目する。

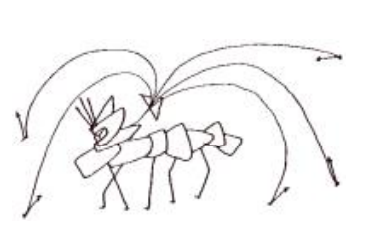


大学セミナー・ハウス本館断面図 1963年頃



5本目の脚
文明について
Civilization

物との関係を突き詰めて、現場で生まれる膨大な数の原寸図は、手でつくるかたちへと迫る。あそびを見直し、専門分化を批判し、常識をひっくり返す思考。そして、吉阪の分身とも言える「かんそうなめくじ」。メビウスの輪を世界モデルに描くダイアグラム。地球をありのままに捉えるための地図。ここでは、吉阪の思想を様々な資料から探っていく。



かんそうなめくじ 1966年 個人蔵

*図面は全て文化庁国立近現代建築資料館蔵

関連イベント

シンポジウム 1

テーマ:「吉阪隆正+U研究室による集団設計」

開催日: 2015年12月6日(日)14:00~16:00

会場: アテネ・フランス 4階講堂(東京都千代田区神田駿河台2-11)

出演: 藤森照信(東京大学名誉教授)、重村力(神奈川大学教授、Team ZOO いるか設計集団)、伊勢崎賢治(東京外国語大学教授)

司会: 中谷礼仁(早稲田大学教授)

定員: 150名(要事前申込、参加費無料)

シンポジウム 2

テーマ:「ヴェネチア・ビエンナーレ日本館から大学セミナー・ハウスへ」

開催日: 2016年2月20日(土)14:00~16:00

会場: 大学セミナー・ハウス講堂(東京都八王子市下柚木1987-1)

出演: 鈴木柊(早稲田大学名誉教授)、戸沼幸市(早稲田大学名誉教授)、富田玲子(象設計集団)

司会: 齊藤祐子(サイト一級建築事務所代表、早稲田大学芸術学校講師)

定員: 150名(要事前申込、参加費無料)

ギャラリートーク

テーマ:「吉阪隆正のことばから」

開催日: 2016年3月上旬(未定)

会場: 国立近現代建築資料館資料室

出演: 未定

司会: 前川歩(奈良文化財研究所研究員)

定員: 30名(要事前申込、参加費無料)

*テーマ、出演者は変更されることがあります。

*申込方法等の詳細についてはホームページをご参照ください。

入場方法: Entry

国立近現代建築資料館への入場方法は2つあります。

There are two ways to enter the National Archives of Modern Architecture.

A. 展覧会のみ観覧(平日のみ利用可)

湯島地方合同庁舎正門よりご入館ください。入館料無料

To view the exhibition only (open on weekdays)

Visitors may enter from the Yushima Local Common Government Offices main gate. Admission is free.

B. 都立旧岩崎邸庭園と同時観覧

都立旧岩崎邸庭園よりご入館ください。ただし旧岩崎邸庭園入園料(一般400円)が必要です。

To view both the exhibition and Kyu-Iwasaki-tei Gardens

The National Archives of Modern Architecture may be entered from the Kyu-Iwasaki-tei Gardens. (admission 400 yen)

*Aルートで入館された方は、都立旧岩崎邸庭園には入場できません。

Visitors who entered from the Yushima Local Common Government Offices main gate are not permitted to enter the Kyu-Iwasaki-tei Gardens.

アクセス: Directions

千代田線「湯島」より徒歩3分

銀座線「上野広小路」より徒歩10分

大江戸線「上野御徒町」より徒歩10分

山手線「御徒町」より徒歩15分

3-min. walk from Yushima Station

(Tokyo Metro Chiyoda Line)

10-min. walk from Ueno-hirokoji Station

(Tokyo Metro Ginza Line)

10-min. walk from Ueno-okachimachi Station

(Toei Subways Oedo Line)

15-min. walk from Okachimachi Station

(JR Yamanote Line)

会場: Venue

文化庁国立近現代建築資料館

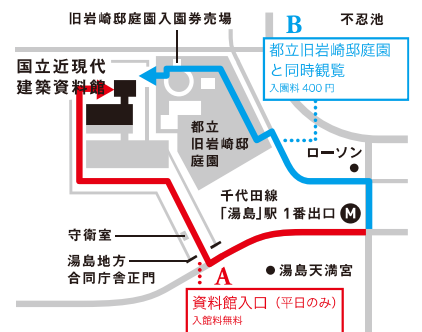
National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

113-8553 東京都文京区湯島4-6-15

TEL.03-3812-3401 FAX.03-3812-3407

4-6-15 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8553, Japan

http://nama.bunka.go.jp/



文化庁
国立近現代建築資料館
National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs